



空と窓と、

京都の路地は奥に深いです

mi



早朝なので、空気がピンと張り詰めてます。
波平サンの頭のような蒸気がビルの屋上から。

今日は新町通りを四条から上がって行きます。



このあたりは鉾町で、これは月鉾保存会の会所。
いろんな集まりに使ったり、鉾を収納してあったり、というような会所が
このあたりのあちこちにあります。



これもその一つで、放下鉾保存会の会所。

右側の高札のようなものは、文化財としての由来を書いたものです。

決して、生類憐みの令とかが記されている訳では有りません。



ちょっと横道にそれると、こんな感じ。



場所柄、京都らしいたたずまいを残した飲食店関係が多いです。



でも実際のところは、現代風の民家やビルに囲まれて、
ぽつぽつとある、というのが現実です。



こうしてグラスに映るのも、



ワインボトルに映るのも、ビルなんですよ。



うーーーーん。痛そうな歯医者さんだ。



ポンプドーセンターのような配管！

焼き肉関係かなにかだと思うのですが、
排煙処理しないとうるさいんでしょうね。

でも、こうまでやったら却ってアートっぽい。



黒板の 路地の奥には 防火水
五七五にまとまりました。



首折れそう



大正、昭和のころに使われていた瓶だと思いますが、
いろいろな形があって面白い。

しかも、昔の瓶で、なんとこの”はんなり”したところがあって、
時代の空気とも通じるところがある気がします。



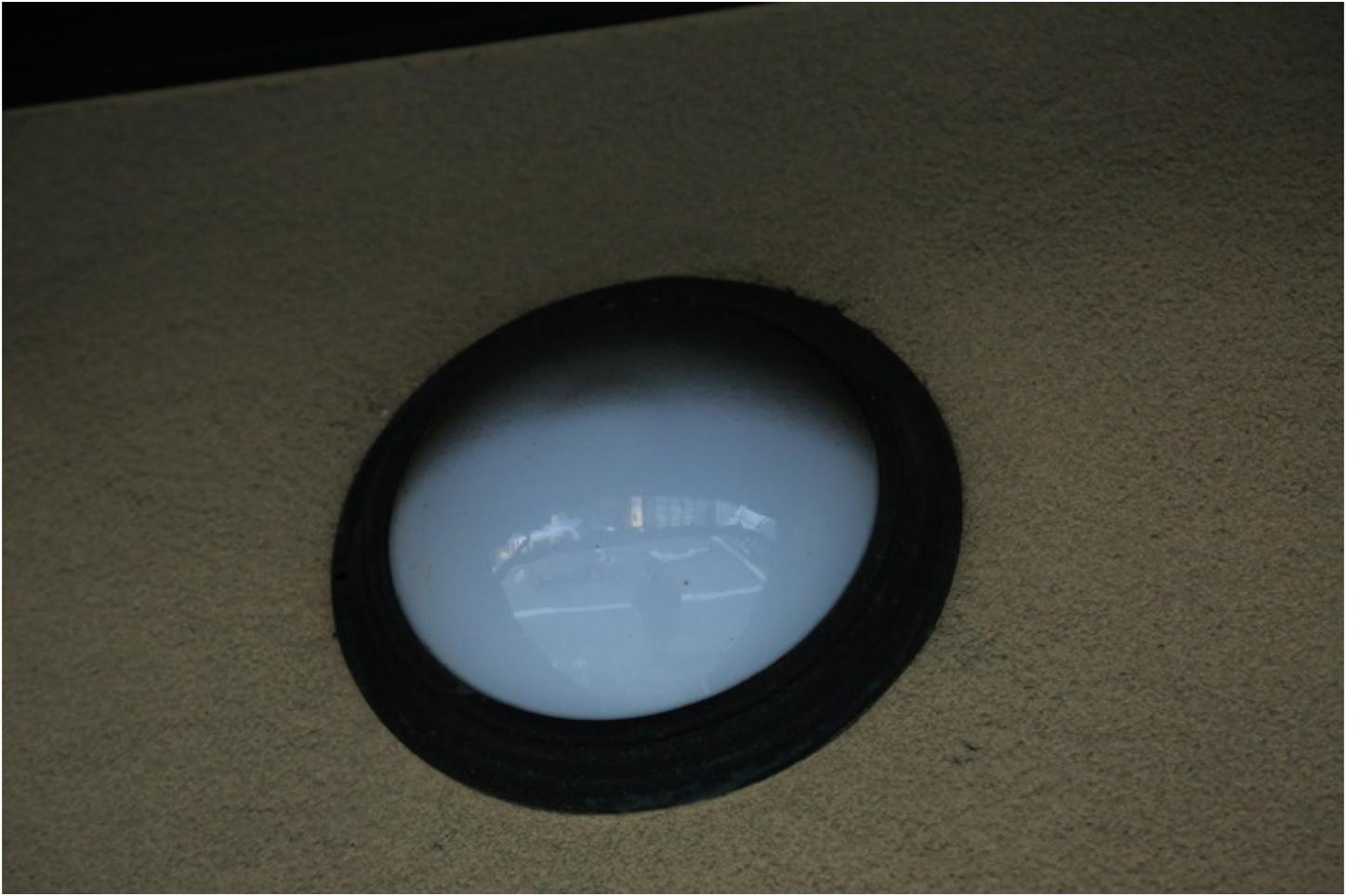
かっこいいです。
でも、朝のうちしか見れません。
なので、お客さんはこれを知りません。



渋カッコいいレタリング
新し物好きの京都人にピッタリな意匠。
剥げ具合がいかにも使われてるって感じ。



招き猫とはどうも相性が悪いんですね。



眠たそうな目



所番地が書いてあって、その下に懐かしい”仁丹”
子供の頃父親が噛んでいましたが、あの匂いが大嫌いでした。

NHK

22-1316

1967

1967

NHK

1967

1967

中立公安協會員

三平路列會員

NHKに関西電力に、水洗、次はガスかなあ。
昔は京都瓦斯という会社が在ったらしい。
で NHKのカラー契約に次が錆びすぎててさっぱりわからず。
一番下は、下水関係かも。。。

こういうのがどこの家にもはってあります。



この人も、どこの屋根にもいてはります。
ちょっと情けない顔がかわいい♡



ここは一度夜にきてみたいところですね。
右の郵便ポストは現役でした。



南天が奇麗。



御池通を横断します。
でも、南北に歩くので、気持ち的には縦断という感じです。



見慣れた鶴の紋です。
1月なので、花びら餅ですね。
苦手な人、多いかも。



こんな窓ガラス。すっかり見かけなくなりました。
ホウ酸の結晶を重ねたような模様になっていて、美しいです。



いい具合に変色、退色していて、寂びた感じがします。
こういうものが、通りすがりの街角でポンと見られる。



満艦飾な盆栽

椿のようですが、鉢はバラバラですね。
沢山ある割には、気合入ってるんだかどうなんだか。



たてがみが無いので、キリンというより恐竜に見えなくもない。
中も動物シリーズなのかなあ。

ゆ、の字は、左が子供で右が大人になってるんですね。



箱入り娘ではなくて、箱入り鍾馗さん。
息苦しそう。



ギター屋さん。京都は昔からライブハウスや生演奏のお店が多くて、ミュージシャンの方々も多いので、こういう路地裏のギター屋さんなんてのが成り立つんでしょうね。

ここも夜に来てみたい。



お見事な松。壁の色と軒の緑青の色があいまって、障壁画のようにも見える。



京都府庁に行き当たりました。始めてです。
おそろおそろ門を通過してみたんですが、普通に入って良いようです。



お約束の飛行機雲



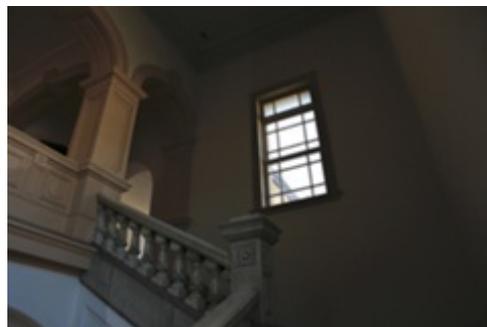
で、おっかなびっくり中に入ってみましたが、誰にもとがめられず。
自由に見学できました。





中庭です。

この木は、有名な丸山公園の桜が親だそうです。
満開の頃にもう一度来たいですね。あと、3ヶ月ぐらい先か。





京都市内でいまでも頑張っておられる、作り醤油屋さん。
荷物になるので、帰りによって淡口醤油を買って
帰ろうと思ったんですが、違う道に行ってしまうと
買えませんでした。



蔵の上の漆喰の装飾が凄い。
コテで描いてるのかなあ。
どうして波しぶきなのかなあ。
ひょっとして型が有るのかなあ。
とか、興味が尽きません。



神社仏閣の多さには及びませんが、教会も多いです。
その教会で出会った、



猫さん（しっぽ短い）。
どうも猫に嫌われている気がします。
近くによって来ない。



金属のような光沢のある瓦と、赤い椿の配色が妙。



この細さですから。自転車が一番便利。
自転車で行ける距離で、何でも揃うっていうのも有るかも。



靈光殿天満宮

「天下無敵必勝利運」と書いてあります。

この額を見たとき、こじんまりとした社殿とのギャップに笑ってしまったんですが、献灯の提灯に書かれているのが、これまたわたくしでも知っている家元やらなんやらのお名前がずらり。



どおりで狛犬さんの顔がきりっと凛々しい筈です。



カステラの端っこのような家

お隣と持ちつ持たれつで建っていたようですが、
何かの理由で隣を壊したとき、つかえ棒をつけたようです。

”この歩道は自転車の通行できません”
無駄だったようですね。



「インフルエンス あのころの僕たち」のヨウタが、昔肉まんを買ったお店。



暮らしていた学生マンション。いまでも学生達が出入りしていました。



ヨウタがお世話になった、講義ノート屋さん。丁度、後期テストの期間だったようです。



そしてヨウタの通っていた学校、、、この2階がゼミの教室でした。



御所に向かいます。
お散歩かあ。



この塀の向こうが京都御所。



外国人観光客のみなさん。
きちんと間を空けて列になっているところが、おかしい。
郷に入りては郷に従え、ですかね。

一般公開中ではないので、事前予約が必要なようです。



そしてこれがかの有名な「御所の細道」。



笑うてるように見えなくもないんですが、
洛中でそういうことを書くと、夜になったらほんまに
魑魅魍魎の類いになってしまいそうで、、、。



坪庭発見



映画「大脱走」のラストで、スティーブ・マックイーンがバイクで飛び越そうとして引っかけた鉄条網を思わせるような鉄壁の守り。



お香のお店でした。
針金入りのガラスなので線が入ってしまっています。
なんだか、中途半端な美意識ですね。



恐いやら可笑しいやら。

「おたやんこけても鼻うたん」という、失礼千万な
囃子ことばが有りますけど、鼻が一番こすれてますね。



シンプルで美しい。
ただの単純な線だけなのに、
これが岸辺に立つ丹頂だというのが
分かってしまいます。

真ん中に皺を寄せることで、つるぺたん、ではなくて
柔らかみのあるカーブを作っているんですね。
暖簾の下げ方も、奥深いです。



今日歩いた、通りです。
北へ行く事を上がる、南へ行く事を下がるといいます。
いまは下がっているところです。

この”上がる””下がる”というのが、なんでかって言うのがよくわからんのですが、
実際のところ北の方が南より高いので、南から北へはゆるい上りになっています。

またかつては内裏が都の北辺にあったので、北へ向かうことを
”上がる”と言ったのかなと想像しています。

直線道路がこんなに続く町も珍しい。

写真集

「からくれないに」

「bleu, jaune, vermillon」

「H.45」

「Fly me to Paris I～XIV」

「祇王 こけのこ」

「空と雨と6月と」

<http://p.booklog.jp/book/73051>

<http://p.booklog.jp/book/73117>

<http://p.booklog.jp/book/73225>

<http://p.booklog.jp/book/74864>

<http://p.booklog.jp/book/74060>

小説

「ネガティブズ2」

「ネガティブズ」

<http://p.booklog.jp/book/73051>

写真集「空と僕と自転車とni」

<http://p.booklog.jp/book/72996>

写真集「空と僕と自転車と」

<http://p.booklog.jp/book/72092>

写真集「空と椿と木蓮と、そして花水木」

<http://p.booklog.jp/book/71344>

写真集「空と雲と、ぜんぶ鳥のいたずら」

<http://p.booklog.jp/book/70700>

写真集「空と雲と、ときどき春の野に行く」

<http://p.booklog.jp/book/70137>

写真集「空と月と、夜桜デート」

<http://p.booklog.jp/book/69415>

写真集「空と木と、ときどきの梅暦」

<http://p.booklog.jp/book/68722>

写真集「空と窓と、京都の路地は奥に深いです ni」

<http://p.booklog.jp/book/65536>

写真集「空と窓と、京都の路地は奥に深いです」

<http://p.booklog.jp/book/64153>

写真集「空と木とたまに月」

<http://p.booklog.jp/book/62540>

写真集「からくれないに」

<http://p.booklog.jp/book/61473>

写真集「空と雲と、ときどき月」

<http://p.booklog.jp/book/36294>

写真集「夢みる桜」

<http://p.booklog.jp/book/45286>

「黄金の麦畑」

1. Largo

<http://p.booklog.jp/book/58662>

第1回 ～ 第41回

「黄昏の王国」

イーリアス編

<http://p.booklog.jp/book/49612>

アリシア編

<http://p.booklog.jp/book/51254>

一 僕カノシリーズ 一

「僕が彼女に殺された理由(わけ)」

<http://p.booklog.jp/book/31906>

「僕と彼女の選択の事由(わけ)」

<http://p.booklog.jp/book/35498>

「僕と彼女はそれしか答えを見つけられなかった。」

<http://p.booklog.jp/book/36101>

「僕と彼女はそれでも答えを探し続ける」

<http://p.booklog.jp/book/36617>

「僕と彼女と複雑な関係者たち」

<http://p.booklog.jp/book/37238>

「僕と彼女と単純な関係式」

<http://p.booklog.jp/book/37731>

「僕と彼女と校庭で」

<http://p.booklog.jp/book/38409>

「僕と彼女と校庭で 西村兄妹キモノ店」

<http://p.booklog.jp/book/38977>

「僕と彼女のアリア KIMONO BREATH」

<http://p.booklog.jp/book/46524>

「僕と彼女のインベンション」(次回)

一 その他 一

金がない

<http://p.booklog.jp/book/69798>

夕暮れの赤ちょうちん

<http://p.booklog.jp/book/42024>

いもうと

<http://p.booklog.jp/book/40794>

サマータイム・ブルース

<http://p.booklog.jp/book/34054>

危険なドライビングマジック

<http://p.booklog.jp/book/33630>

デフラグメント

<http://p.booklog.jp/book/33116>

インフルエンズ あのころの僕たち

<http://p.booklog.jp/book/32752>

花舞い、名残り

<http://p.booklog.jp/book/32187>

詞画集「ただ憧れだけを」

<http://p.booklog.jp/book/34472>

画集「彼と彼女の表紙画集」

<http://p.booklog.jp/book/39345>